

期にふさわしい生活

—いろいろな人とのかかわりの中で響きあって生活する子どもを求めて—

I、研究主題について

1、主題設定の理由

近年、社会や家庭環境のめまぐるしい変化に伴う幼児の発達の現状を踏まえて、改めて次のような「生きる力」の基礎を育むことが保育・教育の現場に強く求められている。

「生きる力」とは

- 自分で課題をみつけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力
- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性
- たくましく生きるための健康や体力

本園の教育目標と、具体的に考える「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度とは次のようなものである。

- **自力で遊びをみつける子ども**
 - 自分の興味関心や願い・考えをもって、遊び・遊びに必要なもの・場所・友だちをみつけていく意欲や態度
- **心ゆくまで遊びきる子ども**
 - 自分のめあてをもって「みつけた遊び」を追求していく意欲や態度
 - 試行錯誤しながらも自力で工夫し、願いや意図を実現しようとする意欲や態度
- **友だちとなかよく遊ぶ子ども**
 - 友だちの言葉・表現・行動を受けとめ、自分のイメージや考えを広げたり深めたりしながら、共に遊びを創っていかうとする心情・態度
 - 友だちと共に生活していくために必要なことを、自分で考えたり、問題解決していかうとしたりする態度
- **豊かな感性と心情をもつ子ども**
 - 周囲のいろいろな人に親しみや信頼感をもち、共感や思いやりをもって生活していく。

- 身近な自然環境に興味関心をもち、さまざまな体験を通して感じ、考え、生き物や自然への親しみや愛情をもつ。

○印は教育目標 ●は「生きる力」の基礎となる心情・意欲・態度

以上のような教育目標に基づき、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を時期時代の生活の中で体験を通して培っていきたいと考えている。そして、幼児期の発達課題としての基礎基本は何か、また、時期時代の発達課題を充たす経験として最も重要なことは何であるのかを問い直し、「生きる力」と「心」を育むための教育課程の見直しをすると共に、保育の実際における教師の基本的な役割について探ることから、「期にふさわしい生活」の主題にせまっていきたいと考えている。

2、教育課程の編成と時期時代の「生活の構想」（指導計画）の基本的な考え方

(1) 教育課程編成における視点

① 発達の「期」を捉える

本園の教育課程は、下記の研究に基づいて、学年段階や学期、月による区別によらないで、子どもたちの成長・発達の節目の特徴を捉えた「期」を重視して編成している。

「子どもたちの成長、発達のすじみちをよく見ると、年齢段階や学期の区切りによらない、時期時代の特徴を示している。こうした子どもの成長・発達のすじみちの節目節目に目を向けて、その前後とは異なった特徴をもった一定期間を「期」として捉えている。

「期のさかいめ」における子どもの行動は、部分的には重なり合っていて明確でない場合がある。それは、後の段階の萌芽が、前の段階に芽生えているからである。また、「期」が進んでも前の段階の特徴がすっかりなくなるのではなく、いくらか変質しながらも、かなりの期間残存しつづけているからでもある。

「期」の区切りは斜線で示している。これは、前の期の中に、後なる期の萌芽が芽生えたりして、さかいめを截然と引くことは実情に即さないからである。また、こうした表し方は、期の区分を一応のめやすとしてとらえ、固定的にみないようにする上からも大切である。

1981年「教育課程」初版発行一文責 玄田初榮（現昭和女子大学初等教育学科助教授）

「期」を捉える視点

発達の期の特徴と変容の節目は、一人ひとりの発達のみちすじを追っていくことによって、個別のものと学級全体に共通しているものが見えてくる。私たちは、次の視点から時期時代の発達の特徴と変容を捉えている。

ア、選択力（みつけた遊びにふさわしい材料・場所・遊具・方法を選ぶ力）

イ、追求力（自分のめあてやイメージ・考え・意図をもって、みつけた遊びを連続的に追求し、工夫していく力）

ウ、友だちとかかわる力

エ、心情・態度（主体性・思いやり・学年にふさわしい態度）

オ、知的関心（自然・文字・数・ことばへの関心や理解）

② 「季」を捉える

季節の自然環境に目を向け、季節・自然の教育力を生かす

ア、季節と「遊びの経験的な内容」との関連に注視する。

- 自然の環境や場所を見つけて遊ぶ
- 自然物を利用して遊ぶ
- 生き物を見つれたり、採集して遊ぶ
- 季節の変化や事象に気づいていく
- 自然に対する感覚や感性を豊かにする

イ、季節の行事が、子どもの心の発達に与えていく影響に注視し、行事の教育的な意味を捉え直していく。同時に子どもが主体的に考えやイメージを持って取り組める活動として構成していく。

③ 「機」を捉える

「機」とは、子どもが展開していく生活の中で、時期時期に必要な経験をさせていくために、「それにふさわしい環境を構成するのに最もふさわしい時・状況・ことがら」とであると仮定する。

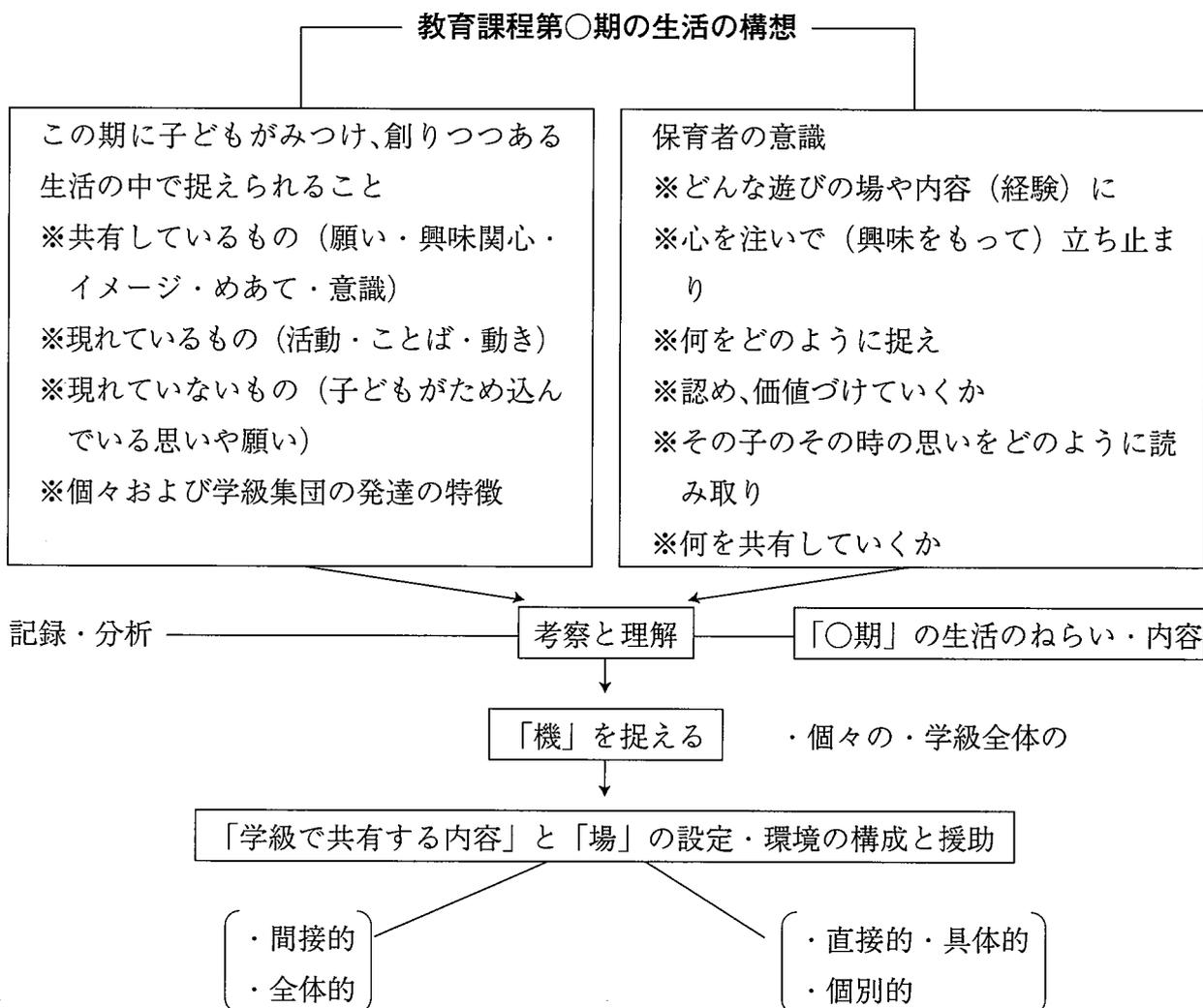
「期にふさわしい生活を求める」ということは、子どもの時期時期の発達の課題を充たしていく経験的な内容をみきわめていくことから始めなければならない。そしてこのことは時期時期の生活の中で「学級全員で共有する内容」の選定と「場」の構成に深く関連することである。

「機」は、個々の発達において意味を持つ「時・状況・ことがら」が偶発的に与えられる場合と、その期の学級の生活の内容と子どもの経験をより充実させていくために、保育者が意図的に環境を構成していく場合の「時・状況・ことがら」の2つの視点から捉えることができる。

(2) 「生活の構想」の考え方

教育課程による、幼児の3年間の発達と、時期時期の生活の中での「経験や活動」の見通しを基盤として、さらに綿密な時期時期の生活を構想している。子どもが展開していく時期時期の生活の内容（子どもが活動を通して経験していることがら）を保育者がどのように捉え、意識し、援助していくかによって、その学級の生活の内容と流れが変わってくる。同時に、子どもにも「期待する姿」すなわちその期の「ねらい」が変わってくる。私たちは、「教育課程」を

ベースとしながら、その年の担任と子どもたちとで共に創っていく生活のプロセスを大切にしている。



「学級全員で共有する活動」とは

ある日突然に、一斉に、一様にではなく、個々のさまざまなプロセスを持ちながら、次第に広がり、ふくらみ、深まり重なり合う意識や活動をいう。

「自分でみつけた遊び」と「学級全員で共有する活動」の一つ一つの経験や活動は、個々に切り離された形で帰結しているのではなく、子どもの願い・興味関心の共通性、活動や経験の連続性、相互の関連を通して結びつき「共有する経験」の内容として蓄積されていく。

3、基本的な保育の姿勢

研究主題、副主題及び保育の課題を具現化していくために以下のことがらを保育の基本としている。

基本的な保育の姿勢

ア) 「自分でみつけた遊び」を生活のベースとして環境を構成していく

「自分でみつけた遊び」とは子ども自らが遊びの内容・場所・必要な物・道具を選び、一人で、または友だちと一緒に、自由に展開していく活動である。こうした活動を心ゆくまでさせることによって、一人ひとりの個性的な表出や表現（発想・イメージ・考え・ことば・動き）を促し、生き生きとした活動や生活を創っていく力（選択力・追求力・友だちとのかかわる力・心情・意欲）を培っていくことができると考えている。一人ひとりの子どもがみつけたり、創っていく活動を個々の発達に意味をもつ経験となるように充実させ、次の「期」の発達の糧となるようにしていくために次のことがらを大切にしながら時期時代の生活を構想し、「一日の生活」を組み立てていく。

- 子どもがみつけたものやことがらを教材として活動化していく。
- 子どもが創っていく活動の流れに注視し、その日の子どもの気持ちや動きに応じた個別的な環境の構成や「学級全員で共有する内容」と「場」を構成する。
- 子ども同士の気持ちをつなぎ、友だちとのかかわりを支えていく。
- 発達の時期時代によって、子どもが展開する生活のリズムが異なることに注視し、できるだけ自然な生活の流れとなるように配慮する。（片づけ、集合の時間を固定化せず、全体の活動の節目を作るタイミングを考慮する。）

イ) 一人ひとりの幼児を理解し、信頼関係を築く

一人ひとりの子どもが活動を通して表現していることや、経験していることがらを捉えるとともに、その子の個性、発達の特性、心情や願いなど、多面的・経時的・総合的な幼児理解に努め、幼児が心を開き、安心して遊べるよう信頼関係を築く。

ウ) 一人ひとりの発達の特性や個性が生きる「学級集団」を創る

それぞれの子どもの個性的な活動や表現を認め、互いに生かし合える学級集団の質を育てていく。また、同じ活動場面でも、個々の子どもの発達の特性や興味関心の違いによって、経験している内容が異なることに注視し（平成5年度・研究紀要第29号）、友だちとのかかわりの中で生まれてくる相互作用に目を向け、子ども同士のかかわりが意味をもっていくような状況や場を意識的に構成していく。

エ) 経験や活動の伝播や伝承性に目を向け、同年齢・異年齢の学級間のつながりと保育者同士の連携を大切にする

年長組が展開している活動を見たり、参加していく体験を通して、年少・年中組の子どもが同じようにして遊ぼうとしたり、次の年度に前の年の活動が受け継がれていくなど活動や経験の伝播・伝承によって子どもたちの生活の内容や経験がより豊かなものに成長していく。また、やさしさや思いやりの心情や態度など、異年齢のかかわりの中で育てていくものは大きい。こうしたことがらに目を向け、異年齢の子ども同士のかかわりを育てるため、保育者同士

の相互理解による連携を大切にします。

オ) 子どもたちのより豊かな発達を支援していくため、保護者との連携を大切にします。

子どもたちの生活は幼稚園と家庭との循環の中で営まれている。時期時代の生活の内容と、子どもたち一人ひとりの発達の課題を相互理解していくために、

- ① 保護者との信頼関係づくりを大切にします。
- ② 保護者と連携して保育環境をつくり、子どもの活動や経験をより豊かなものにしていく。
- ③ 近年母親の子育てへの不安や悩みが大きくなっていることから、それを受けとめ共に考えたり、話したりできる母親同士の関係を築いていく。

このような観点から、子育ての喜びや保護者のかかえる悩みや不安を共有していくことができるよう、保護者同士が協力して行うサークル活動や教職員と連携して行う保育活動などを通して、「子育て支援」を充実していくことを目指していく。

Ⅱ、平成13年度研究の概要

1、平成12年度研究の歩み

(1) 本園の子どもの家庭の実態・子どもの発達の傾向

近年、子どもたちを取りまく社会・家庭環境の変化に伴い子どもたちの育ちの変化が叫ばれている。本園でも以下のような子どもたちの実態と家庭の実態を捉えている。

本園の子どもの家庭の実態

- 核家族がほとんどである
- 近隣とのつながりが薄い・孤立化しやすい傾向にある
- 少子化に伴って、子どもたちが地域でいろいろな年齢の子どもに触れて遊ぶ経験が乏しい
- テレビやゲームでの遊びなど室内遊びが多く、自然の中で実体験を伴う経験が不足している

本園の子ども達の発達の傾向

- 友だちとかかわる力や社会性の発達において個人差の幅が以前に増して大きくなっている
- 未経験のことに対して臆病であり、試行錯誤や失敗を恐れる子どもが多くなった
- トラブルや困難に出会うと、自分で問題解決をしながら遊びを進めていく態度や力がやや乏しくなった
- 文字数字への興味関心の芽生えや、ことば・いろいろな知識の習得が早くなっている一方で、それらと生活・遊びの体験や実感との結びつきが弱くなっている

このような、本園の子どもの実態やそれを取りまく社会、家庭の状況を受けとめ、昨年度より「人とかかわる力」と「遊びを追求していく力」に焦点を当てて発達の時期時代にふさわし

い生活のあり方を探ってきた。

(2) 平成12年度成果と課題

<研究の成果>

- 「人とかかわる力」と「遊びを追求する力」は相互に関連しあいながら育っていくことに着目した。
- 目に見える形だけでなく、一人ひとりの経験していることを心情・意欲・態度の内面から捉えて支えていくことが大切であることを確認した。
- 保育者同士が他クラスの営みに立ちどまり、気持ちを向けて、同学年や異年齢の子ども同士のかかわりの場面場面を支えていくことによって、一人ひとりの活動や経験が広がり、生活の内容が豊かになっていくことを確かめた。

<研究の課題>

- 子どもと共に期にふさわしい生活を創っていくためにはさまざまな人との連携が重要であることを再認識し、さらに力を注いでいく。実際の子どもの姿や援助のあり方を語り合い、多面的に子どもを理解していくことを通して、教職員同士の連携の実際やあり方を語り合い、共通理解を深めていく。
- 保護者との連携においては、共に生活を創る仲間として、引き続き、より密な連携のあり方を探っていく。

2、平成13年度～14年度研究副主題について

副主題 いろいろな人とのかかわりの中で響きあって生活する子どもを求めて

(1) 副主題設定の理由

平成12年度の研究の成果と課題、および13年度捉えた子どもたちの実態を踏まえ、「いろいろな人とふれあい関わっていく中で、豊かな感情体験をしながら自分の生活や遊びに願いやめあてを持ち、意欲的に取り組んでいく子ども」の育成を目指し、副主題を設定した。

- * 「いろいろな人」とは
同年齢・異年齢の友だち、教職員、保護者、大学の教官、教育実習生
- * 「響き合って生活する」姿とは
 - 友だちの中で、自分の思いや考え、イメージを表していく
 - 友だちの言葉・表現・行動を受けとめ、自分のイメージや考えを広げたり深めたりしながら、共に遊びを創っていこうとする
 - 友だちと共に生活していくために必要なことを、自分で考えたり、問題解決していこうとしたりする
 - 周囲のいろいろな人に親しみや信頼感を持ち、共感や思いやりを持って生活していく

- 身近な自然環境に興味関心をもち、さまざまな体験を通して感じ、考え、生き物や自然への親しみや愛情をもつ

(2) 研究のねらい

- 自分の願いやめあてをもって遊びを追求していく意欲や態度
- いろいろな友だちの思いや良さを受けとめ、響きあって生活していく態度や力を育てていくために、
 - ① 一人ひとりの発達の過程および集団としての発達の過程に目を向け、時期時期にふさわしい生活を創り出す
 - ② いろいろな人との連携の中で環境の構成と援助をしていく

(3) 追究の視点

- 自ら体験し心を動かしながら遊び込める自然・物的環境づくり
- 一人ひとりの自己表現を互いに受けとめ受け入れていく園の雰囲気や関係づくりのあり方
- 子どもと保育者と保護者、保護者同士が園の生活や活動を共有し、共に育っていくための保育環境づくりのあり方
 - 一人ひとりの子どもの発達を相互理解していくために
 - 子育ての喜びや時期時期の課題を共有するために
 - 親と子が共に育ち合うために

(4) 研究のまとめ

いろいろな人とのかかわりの中で響きあって生活するためには

- 自ら体験し心を動かしながら遊びこむ生活
 - 一人ひとりの自己表現を互いに受けとめ受け入れていく関係づくり
 - 子どもと保育者と保護者、保護者同士が共有感をもって生活し共に育ちあうための保育環境づくり
- をしていくことが必要であるという視点をもち、副主題にせまっていくための環境の構成や援助のあり方を探っていき、下記のようなことが大切であると捉えた。

1、自ら体験し心を動かしながら遊びこめる環境づくり

- ① 園（独自）の環境を子どもにとって生きたもの、意味のあるものにしていく。
 - ・ 時期時期の子どもたちの発達や興味関心にあった環境と出会わせ、子どもたち自身の気付きと主体的に物事に取り組んでいく態度を支えていく。
- ② 子どもたちがいろいろな気づきを表わし、学級の友だちや保育者と伝え合ったり、共感したりしていく経験を大切にする。

2、一人ひとりの自己表現を互いに受けとめ、受け入れていく関係づくり

- ① 受容的な援助に努め、保育者との気持ちのつながりがもてるようにする。
- ② 一人ひとりが学級の中で存在感や安定感を感じることできるようにしていく。
- ③ 一人ひとりの自己表現や持ち味のよさを認めあって生活していけるような学級の雰囲気づくり・環境の構成・個別的な援助に努める。
- ④ いろいろな場面で友だちと対等に関わって自分を表わしていけるよう支えていく。
- ⑤ 友だちとしっかりと向き合う経験を大切にする。
 - 生の（ありのままの）感情をその子なりの表現の仕方ですっきりと相手に伝えていけるよう保育者は共に考えたり見守ったり仲立ちをしたりして支える

3、子どもと保育者と保護者、保護者同士が共有感をもって生活し、共に育ちあうための保育環境づくり

- ① 親の日常的な保育参観・参加による子ども理解と解釈の共有を図る。
- ② 保護者の思いに応える。
- ③ 保護者と連携し保育環境をつくっていく。
- ④ 保護者同士のつながりとネットワークをつくる。
 - ・ 保護者同士が互いに支え合い、保護者として成長していくために、活動参加の機会や場を提供する。
- ⑤ 育児について語り合える場を設ける。
- ⑥ 教職員同士の連携を大切にする。
 - ・ いろいろな保育者、職員がいろいろな子どもたちにかかわり、多面的な見方で子どもを捉え、それを語り合うことによって子ども理解を深めていく。
 - ・ 子どもの持つさまざまな課題や学級の課題を共有する。

Ⅲ、平成14年度の研究の課題

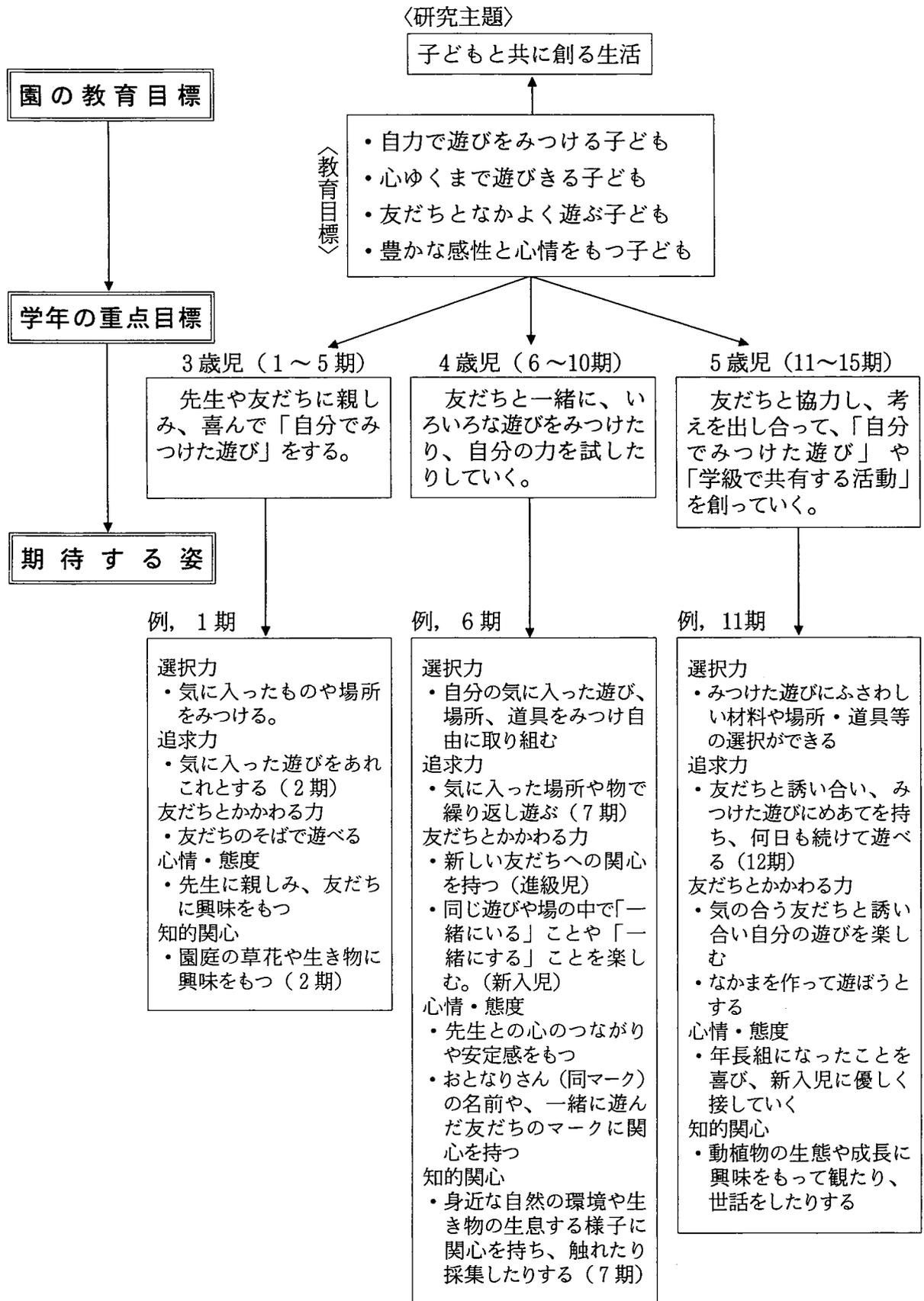
平成14年度の研究の方向は、平成12年度～13年度の実践研究の成果と課題を踏まえて、その内容（平成13年度のねらいと追究の視点）をさらに具体的な実践を通して追究していく。

なお、研究の課題として、副主題の「いろいろな人とのかかわり」について、そのスタンスを同年齢・異年齢の友だち・教職員・保護者との関わりを基盤として、地域の人・社会に目を向けより柔軟に広げていく。

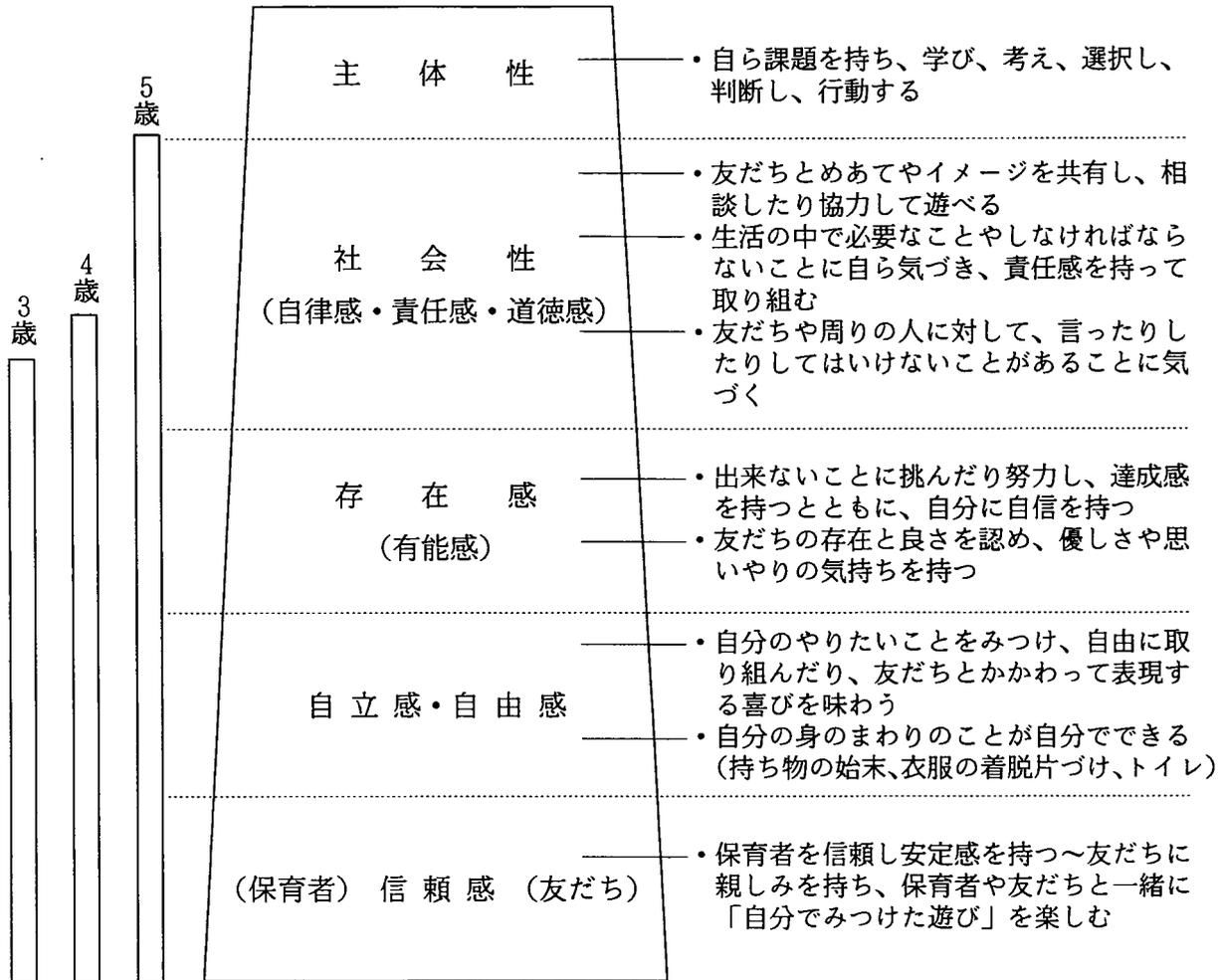
また、これからの社会の要請に基づいて、保護者・子ども・教師が共に成長していくための研究の内容を精選するとともに、保育の基本的なあり方を見直し、より日常的な大学学部教官との連携による研究体制を確立する。同時に、学部教官・附属学校・幼稚園の三者による共同研究を推進していくことを目指す。

教 育 課 程

1. 教育目標の具体化



2、3歳児・4歳児・5歳児の発達課題の見通し



3 歳 児

学年 目標	月 期		四	五	六	七	九	十	十一	十二	一	二	三			
	期		1	2		3			4				5			
先生や友だちに親しみ喜んで「自分でみつけた遊び」をする	期待する姿	選択力	○気に入ったものや場所を見つける ○友だちのまねをしたりして遊ぶ ○いろいろな環境（友だち、自然、場所）に目が向くようになり、かかわって遊ぼうとする						○自分なりのイメージをもち遊びや遊び方を見つける							
		追求力	○気に入った遊びをあれこれする ○印象深いことを手がかりに繰り返し遊ぶ ○出来ないことに挑戦したり自分でやってみようとする						○気に入った遊びをつづけてする							
		友だちと関わる力	○友だちのそばで遊べる		○一緒に遊んだ友だちのマークや名前を覚える			○興味関心を同じくする友だちと一緒に遊ぼうとする ○仲良しの友だちをつくり数人でイメージを共有して遊ぼうとする ○同年令、異年令のいろいろな友だちの遊びに関心を持って見たり、まねたりする				○いろいろな友だちに親しみ「いちご組」としての仲間意識をもって遊ぶ				
		心情態度	○先生に親しみ友だちに興味をもつ ○先生や友だちと一緒にいることを喜ぶ		○自分の気持ちを素直に出したり先生にわかってもらおうとする ○友だちと気持ちを通わせたり、ふれ合って遊ぶことを楽しむ。好きな友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○身のまわりの片付けや衣服の始末など、少しずつ自分でしようとする			○自分の気持ちを素直に出したり、相手の気持ちをわかろうとしたりする				○友だちの気持ちを受け入れたり、思いやったりする				
		知的関心	○園庭の草花や生きものに興味をもつ ○身近な環境（自然・物・生きもの）に直接ふれてみることでそれぞれの感触や心地よさを感じ楽しむ ○自分のマークや持ち物の場所などを少しずつ覚える						○季節や自然の移り変わる様子に気がついたり、自然物を集めたりみたりする							
生活の内容	自分でみつけた遊び ↓↑学級で共有する活動 ↓↑	生活の内容	○気に入った場所や自分がみつけたもので遊ぶ（積木、ままごと道具、三輪車、階段） ○好きなものを描いたり作ったりする（紙、粘土） ○園庭の気に入った所で遊ぶ（固定道具、砂場、ニワトリ小屋付近、前庭） ○庭のいろいろな場所を見つけて遊ぶ ○高い所に登ったり、とび降りたりする遊び（階段、築山） ○築山のどろんこで遊ぶ						○木の実、落ち葉を見つけたり、使って遊んだりする（ドングリ、イチョウ） ○気に入った素材を使って作ったり描いたりする（空箱、紙、木の実、木の葉） ○気に入った場をみつけイメージのある遊びをする（おうちごっこ、レストラン） ○自分の力を試して遊ぶ（ポール登り、自転車）				○冬の自然と遊ぶ（雪、氷、霜柱など） ○春をみつけて遊ぶ（フキノトウ、ツクシ、ヨモギ）		○数人の友だちと一緒に遊ぶ（かくれんぼ、かごめかごめ、おいかけっこ、つなひき） ○遊戯室でいろいろな遊具を使って遊ぶ（積木、鉄棒、どび台、巧技台）	
		行事	○入園式 ○誕生会（毎月） ○親子なかよし会		○避難訓練			○運動会				○イモ掘り ○秋まつり ○もちつき ○まめまき ○園外保育参観（秋の自然の中で遊ぶ）		○全員で遊んだあとのそうじ片づけをする（雑巾、ほうき、整とん） ○新しい友だちを迎える活動（片づけ、掃除） ○年長さんさよなら会		

※「期待する姿」や「生活の内容」の○印は、開始点を示している。

4 歳 児 (2年課程・3年課程混合)

学年 目標	月 期		四	五	六	七	九	十	十二	十二	一	二	三	
			6	7	8			9			10			
友だちと一緒に、いろいろな遊びをみつけたたり、自分の力を試したりしていく	期待する姿	選択力	○自分の気に入った遊び、場所、遊具をみつけ自由に取り組む ○園のいろいろな環境をみつける ○遊びの内容や、場所の選択、遊び方を広げていく ○遊びに必要な物を見つけたり、家から用意してきたりする						○いろいろな材料や自然物を見つけ、遊びの内容に応じて利用して遊ぶ					
		追求力	○気に入った場所や物で繰り返し遊ぶ ○自分(たち)のめあてを持ち、見つけた遊びを続けていこうとする ○友だちのみつけた遊びに触発されながら、新たな経験を広げていく						○自分の力を試したり挑んだりし、繰り返し続けていこうとする			○遊びをより面白くするための工夫をする		
		友だちとの関わり	○新しい友だちへの関心を持つ(進級児) ○同じ遊びや場の中で「一緒にいる」ことや「一緒にする」ことを楽しむ(新入児) ○いろいろな友だちとふれ合い、気に入った友だちをみつけていく(進級・新入児) ○「なかよし」の友だちとの関わりを広げたり深めていく						○数人の友だちと「ごっこ」のイメージを出し合ったり、共有して遊ぶ ○同年令・異年令のいろいろな友だちへ関心を向けて、遊びの場に参加していく			○男女の関わりを広げ、より多くの友だちと一緒に遊べる ○遊びのめあてを共有して役割を決めたり、協力して遊ぼうとする ○異年令の友だちと関わり一緒に遊べる		
		心情態度	○先生との心のつながりや安定感を持つ ○おとなりさん(同マーク)の名前や、一緒に遊んだ友だちのマークに関心を持つ ○自分の身の周りのことを自分でしようとする(持ち物の始末、衣服の脱着、片づけ)						○友だちや周りの人に対して言ったりしてはいけないことがあることに気づく ○友だちを気づかい、気持ちを受けとめたり、優しく接しようとする ○自分に自信をもち、自力で取り組もうとする			○学級の「仲間意識」を深める ○自分の遊びのめあてや、明日の生活の見通しを持つ ○保育者や友だちのことばに耳を傾け関連させて思いついたり、考えたことを自由に話せる		
		心知的関	○身近な自然の環境や生き物の生息する様子に関心を持ち、触れたり採集したりする ○土、砂、水などの感触を十分に味わい、感触や特性の違いに気づいていく						○自然の環境の変化や生き物の様子の変化に関心を持ち、興味を深める ○数や数字への関心をもつ			○文字やことばへの関心をもち「ごっこ」の遊びの中でそれらを使って遊ぼうとする		
生活の内容	自分でみつけた遊び ↓↑学級で共有する活動 ↓↑	生活の内容	○自分の持ち物で遊ぶ(粘土でごちそうづくり、絵描き、紙工作) ○気に入った場所や物で遊ぶ(保育室、遊戯室、園庭、固定遊具、砂場、自転車) ○砂、泥、水に親しんで遊ぶ(足洗い場、築山、砂場、水たまりでのごちそうづくりなど) ○高い所へ登る(ボール登り、木登り、ネットプレイ) ○園庭でのびのびと運動的な遊びをする(かけっこ、自転車、ジャングルジム、リレー、つなひきなど) ○自分の力を試したり出来ないことに挑んだりする(雲梯、とび箱、ターザンロープ、木登り、棒のぼり、とび台、なわとび) ○「秋」の自然をみつけて遊ぶ(落ち葉、ドングリ、ススキ、エノコログサ、バッタ、コオロギ、風、空の色など) ○秋の自然物でつくって遊ぶ(ドングリゴマ、紙に貼ってみる、色水作りなど) ○イメージのあるごっこ遊びをする(おかあさんごっこ、お店ごっこ、忍者ごっこなど) ○空き箱・空容器などを利用した製作遊びをする ○いろいろな草花をみつけたり集めたりする(タンポポ、シロツメグサ、ニワゼキショウ、カラスノエンドウ) ○いろいろな生き物をみつけたり、採集したりする(ダンゴムシ、カエル、ザリガニ、バッタ、テントウムシ) ○みんなと一緒に歌を歌う ○なかよしの友だちやそばにいる友だちと手をつないだり、踊ったりする ○友だちの名前やマークを知る(いろいろな活動・おやつ・おべんとう) ○みんなで紙芝居や絵本を見る ○お弁当を自分で準備したり、片づけたりする ○トイレの使い方を知る ○みんなで集まる ○片づけ ○プールでの水遊び ○ヒマワリの種まき ○ザリガニ釣り						○冬の自然に親しんで遊ぶ(水、雪、つらら) ○冬の戸外で遊ぶ(ソリスベリ、雪だるま・かまくらづくりなど) ○春をみつける(ツクシ、ヨモギ、木の芽など) ○集団遊びをする(おにごっこ、はんかち落とし、だるまさんがころんだ、グニャグニャとまれ)			○クリスマスにかかわる遊びをする(サンタごっこ・プレゼント・ツリー飾り) ○おひなさまにかかわる遊びをする(ひな人形づくり、パーティーなど) ○ニワトリの世話をする(年長から引継ぎ活動)		
		行事	○入園式 ○親子なかよし会 ○誕生会(毎月) ○避難訓練 ○園外保育(春の自然の中で遊ぶ)						○運動会 ○園外保育(秋の自然の中で遊ぶ) ○イモ掘り			○秋まつり ○園外保育(水鳥を見にいく) ○まめまき ○年長さんさよならの会 ○お別れ清掃		

※「期待する姿」や「生活の内容」の○印は、開始点を示している。

5 歳 児 (2年課程・3年課程混合)

学年 目標	月 期		四	五	六	七	九	十	十二	十二	一	二	三	
			11	12			13			14			15	
友だちと協力し、考えを出し合って、「自分でみつけた遊び」や「学級で共有する活動」を創っていく	期待する姿	選 択 力	○みつけた遊びにふさわしい材料や場所・遊具等の選択ができる						○みつけた遊びや課題に、自分の考えやめあてをもって取り組んでいく					
		追 求 力	○友だちと誘い合い、みつけた遊びにめあてを持ち何日も続けて遊べる ○数人の友だちの中で自分の考えを出して遊べる						○友だちと相談しながら、オリジナルの遊びを創り出し、問題解決をしながら続けていこうとする			○友だちといっしょに願い、めあてを実現していこうと、工夫したり、がんばったりする		
		関 友 だ ち ち 力 と 関 わ る ち 力 と	○気の合う友だちと誘い合い 自分を楽しむ ○ななまを作って遊ぼうとする			○なかま意識をもち、めあてを共有して遊べる (数人で)			○いろいろな友だち (同年令・異年令) を呼び込んだり、受け入れたりする ○学級で同一のめあてに向かって相談したり、協力したりして取り組める					
		心 情 態 度	○年長組になったことを喜び、新入児に優しく接していく ○新しい学級の友だちや先生に親しみをもつ			○クラスの一員としての自覚を持つ			○学級の仲間意識を深めていく ○年長組としての自覚をもち、責任感をもって当番活動をする			○先生や友だちの話に心を傾けて聞き、関連させて考えたり、自分の考えを自信をもって話したりする ○もうすぐ一年生になる期待と自信をもち、積極的に行動する		
		知 的 関 心	○土や砂や水に挑んだり試したりする中で その性質に気づき、生かして遊ぶ ○動植物の生態や成長に興味をもって観たり、世話をしたりする						○身近な自然環境の事象や変化に興味・関心を深め、自分の遊びに生かしていく ○文字やことばへの関心を深め、自分の遊びに生かしていく			○数や数字への関心や数量的な感覚をもつ		
生 活 の 内 容	自分でみつけた遊び ↓ 学級で共有する活動 ↓	自 分 で み つ け た 遊 び ↓ 学 級 で 共 有 す る 活 動 ↓	○土、砂、水を利用してダイナミックな遊びをつくる (「水迷路」づくり、「海」づくり、だんごレース) ○春の自然の環境に親しみ、草花を集めたり、つくったりして遊ぶ ○身近な生きものをみつけたり、調べたり、飼ったりする (オタマジャクシ、アメンボ、ダンゴムシ、カブトムシ) ○数人の集団でする遊びをする (おうちごっこ、「ロンドン橋」、秘密基地) ○運動的な力を試したり、繰り返し努力したり、競い合ったりして遊ぶ (なわとび、リレー、跳び箱、鉄棒、雲梯、つなひき、玉乗り) ○このほりにかかわる活動 ○動植物を観察したり育てる (ヒヨコ、ニワトリ、フウセンカズラ、アサガオ、ヒマワリ) ○年長としての自覚を促す活動をする (新入児の世話、ニワトリの世話、片づけ) ○当番グループを決めてニワトリの世話をする ○プールでの水遊びをする						○冬の自然に親しんで遊ぶ (雪、つらら、氷、風) ○秋の自然物で遊ぶ (どんぐりごま、落葉へのジャンプ) ○大きな集団で遊びを創る (オバケやしき、おにごっこ、サッカー) ○役割を分担して創ったり表現する活動をする (劇あそび・音楽的な表現活動) ○ことば・文字や数に親しんで遊ぶ (絵本をつくる、なぞなぞ、かるた、チケット作り、手紙) ○いろいろな学級の友だちを呼びこんだり受け入れたりしながら「ごっこ」遊びを楽しむ ○春を楽しみに待つ (苗植え、クロッカス) ○クリスマスにかかわる遊びをつくる			○秋まつりにかかわる遊びをつくる ○幼稚園生活をしめくくり、進学喜びをもつ活動 (思い出のアルバム作り・年中組へ飼育活動のひきつぎ) をする		
		行 事	○入園式 ○園外保育 (春の自然の中で遊ぶ) ○誕生会 (毎月)			○避難訓練 ○いも苗植え			○園外保育 (水辺で遊ぶ、秋の自然の中で遊ぶ) ○運動会 ○秋まつり ○イモ掘り ○おいもパーティー			○まめまき		○さよなら会 ○修了式

※「期待する姿」や「生活の内容」の○印は、開始点を示している。